がん化学療法指示書

登録番号 358

2022/11/9

作成日

レジメン名	EC+ペムブロリズマブ療法(3週毎)
診療科·対象疾患	(外)ホルモン受容体陰性かつHER2陰性で 再発高リスクの乳がんにおける術前療法
投与間隔	3週毎
投与サイクル数	4サイクル

Chemo Navi

Chemo Navi			
薬剤名	成分名	投与量	投与日
キイトルーダ	ペムブロリズマブ	200mg/body	Day1
エピルビシン	エピルビシン	90mg/ m i	Day1
エンドキサン	シクロホスファミド	600mg/ m ²	Dav1

		:;≠:	t÷.					一 投与スケジュール												
		滴下順	抗癌剤	薬剤(成分名)	投与量	時間	投与方法	day1										day2		
		Rp1	71.2	生理食塩液	100mL	任意	ルート確保・フラッシュ用	•												
		Rp2		パロノセトロンバック	1袋	15分	点滴静注メイン	•												
				デキサート注(6.6mg)	2瓶															
治療内容																				
		Rp3	癌	キイトルーダ(ペムブロリズマブ)	200mg	30分	点滴静注メイン	•												
				生理食塩液	100mL															
	注																			
	射	Rp4		生理食塩液	50mL	15分	点滴静注メイン	•												
							経過観察用													
		Rp5	癌	エピルビシン	90mg/m ²	10分	点滴静注メイン	•												
				生理食塩液	50mL															
		Rp6	癌	エンドキサン	600mg/m ²	30分	点滴静注メイン	•												
				生理食塩液	100mL															
必 投 管リ 投 注	別 時間 出 時 事	day2 day1 エピ, エンI キイI	:-3 7 :-4 - : 1時 ドキ・	滴開始時にアプレピタントカプ・ アプレピタントカプセル80mg 17 デカドロン錠4mg 2錠分2 朝屋 計間50分 シン: 壊死性抗がん剤 サン: 炎症性抗がん剤 ーダ (ペムブロリズマブ): 非壊み	カプセル分1 食後服用	朝食	後服用													
	頁	■4サイクル終了後、手術実施し、術後補助療法としてしてペムブロリズマブ療法を実施する。 *Infusion Reaction Grade2の場合、キイトルーダ(ペムブロリズマブ)の投与を直ちに中止する。1時間以内に回復する場合には、投与速度を50%減速し、再開する。 *Infusion Reaction経験例では、次回より投与30分前に以下薬剤で前処置を行う。 レスタミンコーワ10mg 5錠																		